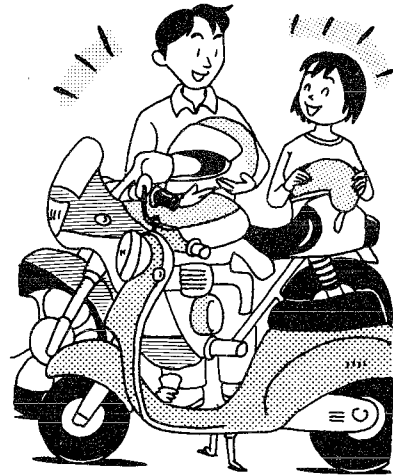


夏休みなどで仲間や家族と一緒に掛ける機会が多い8月は、悲惨な交通事故に巻き込まれやすい時期でもあります。年間の交通事故死者数が減る一方で、依然として高い割合で推移しているのが、前途ある若者や子どもの交通事故死です。今回は、若者によるバイクの交通事故と幼い子どもの自動車乗車中の死傷事故について考えてみました。

若者のバイク事故を防ぐ

魅力あるバイクだからこそ危険も大きいことを忘れずに

バイク乗車中の交通事故で亡くなる人のうち、圧倒的に多いのは10、20代の若者です。交通安全教育の普及などにより死者数は年々減ってきてはいるものの、それでも毎年700人近い若者が命を落としています。若者にとってバイクはとても魅力的な乗り物ですが、その分、操作を一步間違えると、大きな危険が待ち受けています。



夏休みなどもなると、学校生活から解放される若者にとっては比較的自由な毎日が続きます。バイクで遠出をしたり深夜・早朝まで運転したりな場合には、初めてハンドルを握ったりする人もいます。

気軽さ、スピード、解放感。さまざまな魅力を与えてくれるバイクですが、解放的な気分を利用してほどこ、道路は自由な場所ではありません。バイクを運転するときは、その魅力の分だけ多くの危険もあるということを、常に覚えておきましょう。

若者に多い**最高速度違反**

若者に事故が多いのは、単にバイクが若者に人気があり免許を持っている人がたくさんいるということもあるでしょう。しかし、最も大きな要因は、この年代はスピード指向が強く、運転経験が少ないにもかかわらず自分の技術や能力を過信して無謀な運転をしがちなこと。実際死亡事故の法令違反に占める最高速度違反の割合は、若くなるほど多くなります。これは、乗用車についても言えることです。

平成九年中のバイク乗車中の交通事故で、死者数が最も多いのが16〜24歳です。全体に占める割合を見ると、原動機付自転車は、約三分の一の一九・五％（六十五歳以上の三六・六％に次いで一位）、自動二輪車は、半数以上の五五・五％と群を抜いています（一位は十代後半の二二・三％）。

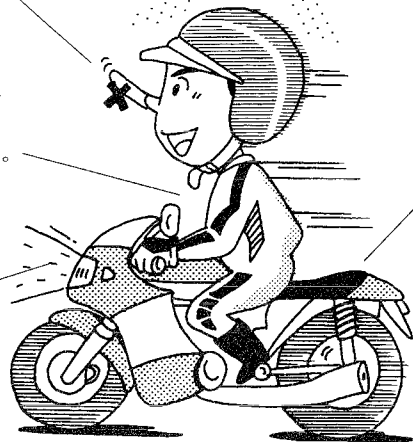
〈バイク事故を防ぐための心掛け〉

過信や慢心は命とり…常に基本に忠実な運転を。

ヘルメットを必ず着用…Sマークなどのついた正規のものを。

よく目立つ服装で乗車…目立つ色は白や赤など。夜間は反射材の利用も。

バイクは昼間もライトオン…ほかから見えにくいバイクを見やすくします。



整備や点検を十分に行う…運転前点検を習慣に。



※これは見本です。

▲グッドライダー・防犯登録(G・防)に加入しよう……バイクの盗難防止や盗難に遭った場合の早期発見のために、グッドライダー・防犯登録をお勧めします。登録すると、都道府県名や警察名、登録番号などが書かれた「G宣言証票」(ステッカー)をバイクの車体に張ることができます。登録は、全国のG・防犯登録取扱店で。

8月19日は「バイクの日」 考えよう バイクのこと

交通死亡事故発生

平成5年6月4日以来

死亡事故ゼロ

1,881日でストップ!!



7月30日、早朝月潟村大字上曲通地内十字路交差点で月潟方向から味方村方向へ進行する普通乗用車と木滑方向から進行してきた原付バイクが出会頭に衝突し、白根市の男性60が死亡。

この死亡事故により、白根警察署管内では、今年に入って昨年の2倍の8人の方の尊い命が失なわれています。

特に若者や高齢者の方が被害にあつており事故の原因は、

- スピードの出し過ぎ
- 安全不確認
- 飲酒運転

などです。

スピードは、控えて安全運転に心掛けましょう。

運転するときは、しっかりと前方を確かめ、交差点では「しっかりと止まってはつきり確認」しましょう。

また、お盆には飲酒の機会が増えたり、旅行等に出かけることが多くなります。

「飲んだら乗るな」「むりのない計画でゆとりを持って」に心掛けましょう。